

# わがやのはやり

松本 まつもと 義考 よしたか

よるごはんをたべていたときのことです。ぼくのすきなおとうさんが、いいことをおしえてくれました。

ほくといもうとはよくけんかします。けんかしないでやくそくするけど、なかなかおりません。どうしてけんかがおらないのかな、おかあさんもこまっています。

おとうさんが、けんかのなくしかたをおしえてくれました。

「おにいちゃんは、いもうとがいてくれてよかったことをみつめてごらん。いもうとは、おにいちゃんがいてくれてよかったことをさがしてごらん。」

といったのです。ぼくはかんがえて、いもうとにきこえるようにいいました。

「いもうとがいるからたのしくあそぶことができるよ。」

いもうとはわらって、こんどはいもうとが、ぼくのいいところをいつてくれました。

「おにいちゃんはやさしいね。」

ぼくはうれしくなつて、またいもうとのいいところをかんがえました。

「いもうとがいるときは、おうちがおもしろくなる。」

とおしえました。いもうとがこんどもぼくのいいところをいつてくれました。きょうだけじゃなくて、おとうさんやおかあさんのいいところも、かんがえるようになりました。

ぼくといもうとのけんかはへりました。ほめてもらったらしいきもちになります。だから、けんかがなくなるとおもいます。

ぼくのかぞくは、おたがいにいいことをいうのがはやっています。なつやすみにはやったことです。でも、これはなつやすみがおわってもやめないでつづけたいです。

おとうさんはおしごとでおそくかえつてくるけど、ときどきあそんでくれるのがいいところ。みんなのために、りょうりとか、せんたくとか、そうじをしてくれるのがおかあさん。いちばんげんきがいいのがいもうとです。みんなありがとう。ぼくはおにいちゃんだから、いもうとにやさしくします。もちろん、おとうさんとおかあさんのいうこともきくし、おかあさんがつくつてくれたおりょうりもぜんぶたべます。